第 23 回（ 2025 年度）土壌物理学会賞（論文賞）選考結果

土壌物理学会　学会賞選考委員会
委員長　登尾浩助

学会賞選考委員会として下記の論文を論文賞としてふさわしいと決定しました.

1. 著者
   原口　暢朗　　元農研機構農村工学研究部門
2. 対象論文
   沖縄地域における浸透性沈砂池を活用した赤土流出軽減に向けた二層ろ過に関する実験的研究
   第 158 号, p. 5 ～ 19, 2024.

3. 推薦理由
   沖縄地域における農地からの赤土流出防止を目的として，浸透性沈砂池を活用したろ過による赤土を捕捉する工法の開発が行われているが，広範な土砂粒径を持つ流出土砂に対して土砂捕捉能力に優れ，かつ長時間目詰まりをしないろ過システムの達成には依然として至っていない．本研究は異分野である水道工学の既往の研究も踏まえつつ，粒径 · 形状の異なるろ過材を用いた 2 層式のろ過構造を導入した場合の土砂の流出抑制効果を単層式との比較実験を行って検討した．土砂の粒径や濃度を変化させた丁寧な実験により，2 層式ろ過におけるろ過持続時間の延長効果を定量的に示し，現場への適用にも直結する実践的な知見を提供している．加えて，粒径の違いに基づく土砂捕捉と目詰まりのメカニズムについてもデータに基づいて精緻に議論をおこなっており，土壌物理学分野の基礎的な研究の進展に資する重要な研究成果である.

本結果は 2025 年 10 月 20 日に開催された評議員会にて承認され，受賞式が 2025 年 10 月 25 日に開催された大会でおこなわれました.

第 2 回（ 2025 年度）土壌物理学会賞（研究奨励賞）選考結果

土壌物理学会　学会賞選考委員会
委員長　登尾浩助

学会賞選考委員会として下記の候補者が研究奨励賞にふさわしいと決定しました.

1. 候補者
   青木　伸輔　　香川大学農学部

2. 推薦理由
   青木伸輔氏は，土壌物理学を基盤に DPHP やサーモ TDR をはじめとする熱 · 水分計測の高度化と，低コストセンサ／マイコンの実装による実地計測の普及に顕著な成果を挙げてきました．GNSS-IR を用いた地表面状態評価や可能蒸発散の長期解析など，方法論と応用の両面で土壌物理学の発展に資する研究を推進しています．査読論文，国内外学会発表に加え，海洋域での温室効果ガス · 堆積物計測にも展開し，物質移動の理解に新たな知見をもたらしました.
   学会貢献としては，2023–2024 年の庶務幹事，2025 年からの編集委員として学会運営 · 出版に尽力し，学会大会での継続的発表と学生の登壇機会創出を通じて若手育成にも大きく寄与しています．さらに，Kirkham Conference 日本側事務局長として国際会議の運営を牽引し，国際連携の基盤強化にも貢献しました.
   近年は農業気象の視点を取り込み，リモートセンシング，温室効果ガス計測，低コスト計測の統合による学際的研究を加速させています．海外研究者との協働を継続しつつ，研究 · 教育を通じて成果の社会実装と人材育成を同時に進める姿勢は，本学会の将来を担うに相応しいものです．以上より，青木伸輔氏を第 2 回土壌物理学会賞（研究奨励賞）に強く推薦いたします.

本結果は 2025 年 10 月 20 日に開催された評議員会にて承認され，受賞式が 2025 年 10 月 25 日に開催された大会でおこなわれました.

第 23 回（ 2025 年度）土壌物理学会賞（ポスター賞）受賞者

土壌物理学会　学会賞選考委員会
委員長　登尾浩助

開催日：2025 年 10 月 25 日
会　場：三重大学

以下の発表が会員および学会賞選考委員会の投票によりポスター賞に選ばれました.

◯ 業　績：原位置の変水位試験による現場飽和透水係数 (Kfs) 値の簡単な測定法
　著　者：井上光弘 · 登尾浩助 · 藤巻晴行 · 猪迫耕二

◯ 業　績：精製モンモリロナイト懸濁液のレオロジー特性
　著　者：佐藤駿介 · 本田壮羽 · 小林幹佳

◯ 業　績：相互相関を用いた花崗岩及び土壌団粒の音響インピーダンス顕微鏡映像
　著　者：上原陸太 · 川口祐季 · 小林和人 · 江波戸宗大 · 松谷晃宏 · 田原麻梨江

◯ 業　績：砂浜に生息する絶滅危惧種イカリモンハンミョウ幼虫の生存戦略：間隙水圧を察知して水没回避
　著　者：山本日和里 · 百瀬年彦 · 上田哲行

◯ 業　績：土壌のガス拡散係数における気相率の定義と封入空気の影響
　著　者：柳侑香里 · 坂井 勝 · 濱本昌一郎 · 長菅輝義

土壌物理学会学会賞選考委員会規定の改正について

2025 年 10 月 25 日に開催された土壌物理学会総会において，土壌物理学会学会賞選考委員会規定の改正が決定されました．以下の新旧対応表をご確認ください．

旧	新
3. 構成 (2)　委員は評議員会の推薦に基づき総会で決定する．	3. 構成 (2)　委員は評議員会によって選出する．

土壌の物理性の投稿規定等の改正について

2025 年 10 月 25 日に開催された土壌物理学会総会において，学会誌「土壌の物理性」の投稿規定，投稿案内，原稿執筆要領の改正が決定されました．以下の新旧対応表をご確認ください．（改正部分はアンダーラインで記載）

投稿規定

旧	新
6. 投稿する場合は，投稿原稿（本文，図表含む）および原稿送り状（別紙書式）の PDF ファイルを編集委員長宛に提出する．ただし，編集委員会が別途指示した場合はこの限りではない．	6.「論文」，「研究ノート」，「総説」，「解説」，「研究紹介」，「講座」は，投稿原稿（本文，図表，電子付録含む）を Editorial Manager ®に投稿する．その他の区分を投稿する場合は，投稿原稿および原稿送り状（別紙書式）の PDF ファイルを編集委員長宛に提出する．ただし，編集委員会が別途指示した場合はこの限りではない．
7. 投稿原稿を受け付けた場合，編集委員会は速やかに受付番号と受付日付を明示した電子メールまたは書状を投稿者に送る．また，投稿原稿の掲載を決定した場合，最終原稿を受領したのちに受理日付を明示した書状を著者に送付する．	削除
9. 著者校正は初校のみとする．また，特に申し出がない限り印刷ずみの原稿は返さない．	8. 著者校正は初校のみとする．

投稿規定つづき

旧	新
11. 掲載された論文等は土壌物理学会ホームページ上にも掲載する．論文，研究ノート，総説，解説，資料，講座については，掲載誌発行後一年間は土壌物理学会員のみが閲覧できる．また，著者はオープンアクセス料 50,000 円を支払うことで，掲載記事をオープンアクセスとすることができる．ただし，投稿時に筆頭著者が土壌物理学会会員かつ大学生・大学院生または学位（学士・修士・課程博士（社会人含む）いずれの場合も含む）取得後 10 年以内である場合は，オープンアクセス料を免除する．	10. 掲載された論文等は，土壌物理学会ホームページとJ-Stage にも掲載する．論文，研究ノート，総説，解説，資料，講座については，掲載誌発行後一年間は土壌物理学会員のみが閲覧できる．また，著者はオープンアクセス料 50,000 円を支払うことで，掲載記事をオープンアクセスとすることができる．ただし，投稿時に筆頭著者が土壌物理学会会員かつ大学生・大学院生または学位（学士・修士・課程博士（社会人含む）いずれの場合も含む）取得後 10 年以内である場合は，オープンアクセス料を免除する．

投稿案内

旧	新
4. 閲読の目的と姿勢 　編集委員会は受け付けた投稿原稿が「土壌の物理性」へ掲載するのにふさわしいかどうかを判定する資料を得るために閲読を行います．編集委員会は適任の閲読者を選定し，閲読を依頼します．__編集委員会は閲読者に対して特に次の点について注意をお願いしています． 6. その他 3）　原稿は一度印刷公表されると末永く評価と批判の対象になります．閲読意見に対しては極力冷静かつ慎重に対処して下さい．誤解があった場合には，その誤解を解くだけでなく，誤解を受けないような書き方に改める努力が求められます．	4. 閲読の目的と姿勢 　編集委員会は受け付けた投稿原稿が「土壌の物理性」へ掲載するのにふさわしいかどうかを判定する資料を得るために閲読を行います．編集委員会は適任の閲読者を選定し，閲読を依頼します．編集委員会は閲読者に対して特に次の点について注意をお願いしています． ※「閲読を依頼します．」の後のスペース削除 6. その他 3）　原稿は一度公表されると末永く評価と批判の対象になります．閲読意見に対しては極力冷静かつ慎重に対処して下さい．誤解があった場合には，その誤解を解くだけでなく，誤解を受けないような書き方に改める努力が求められます．

原稿執筆要領

旧	新
17. 日本語の論文，研究ノートの場合，図，表，写真の題名には英語を併記する．	17. 日本語の投稿原稿（ただし，資料と土粒子，書評を除く）の場合，図，表，写真の題名には英語を併記する．
20. 図と写真はそのまま製版されるので，鮮明なものを提出する． 21. 図は 1/2 倍などとおよその縮小率を指定し，2 倍くらいに大きく書く．図の線の太さや文字の大きさは，刷り上がりの大きさを考慮して決める．	20. 図と写真はそのまま製版されるので，鮮明なものを提出する（1 カラム幅ム幅は 7.5 cm，2 カラム（1 ページ幅）は 14 cm を目安とする）．
新規	電子付録 24. 原稿中に掲載しない補足資料として，PDF ファイル形式，またはその他のファイル形式（Excel ファイル，画像ファイル，プログラムファイルなど）の電子付録を土壌物理学会ホームページと J-Stage に掲載することができる． 25. 本文中で引用する場合，図は Fig. S1，表は Table S2，その他は Supplement 1 の様に書く． 26. 引用文献の前に付録内容の説明を記載する．
新規	29. 土壌の物理性の記事を引用する際は，日本語の文献であっても英語表記で引用文献に書く事が望ましい．
引用文献 < 雑誌 > 森本 聡, 永田 修, 川本 健, 長谷川周一 (2009): 泥炭林土壌の温室効果ガスの生成と消失. 土壌の物理性, 113: 3-12.	引用文献 < 雑誌 > Kikuchi, S., Saito, H., and Oishi, M. (2025): Effect of different latent heat treatments on numerical analysis of ground freezing processes. J. Jpn. Soc. Soil Phys., 159: 13-24, https://doi.org/10.34467/jssoilphysics.159.0_13 (in Japanese with English abstract).

土壌の物理性若手特集論文募集のお知らせ

土壌物理学会論文集「土壌の物理性」では，以下の要領で「若手特集」として若手研究者・大学院生の論文を募集します．多くの皆さんの投稿をお待ちしています．

募集期限：2026 年 3 月末日（アクセプトされた論文は 2026 年 7 月号または 11 月号に順次掲載予定）

投稿条件：投稿時に筆頭著者が土壌物理学会員かつ大学生・大学院生または大学院修了後（修士または博士）10 年以内であること

編集方針：受付日から 3 か月以内に採否を決定いたします

投稿方法：Editorial Manager 上での投稿時に「若手特集」を選択し，筆頭著者が条件を満たしていることを明示すること

問合せ先：編集委員長　渡辺晋生（三重大学） kibyosi@ml.affrc.go.jp